

# 大塚地区 かわら版 第1号

## 大塚地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### 地域の皆さまにお集まりいただき、大塚の公共施設について検討を開始しました

蒲郡市では、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の配置や使い方を示す「地区個別計画」を策定するため、中学校区ごとに「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。8月29日（日）22名の地域住民の方にご参加いただき、大塚地区における第1回目のワークショップを開催しました。この「かわら版」を通じて、ワークショップ各回の検討内容をお知らせし、地区にお住まいの皆さまからご意見の募集を行っていきます。（ご意見の募集について詳しくは最終ページをご覧ください。）

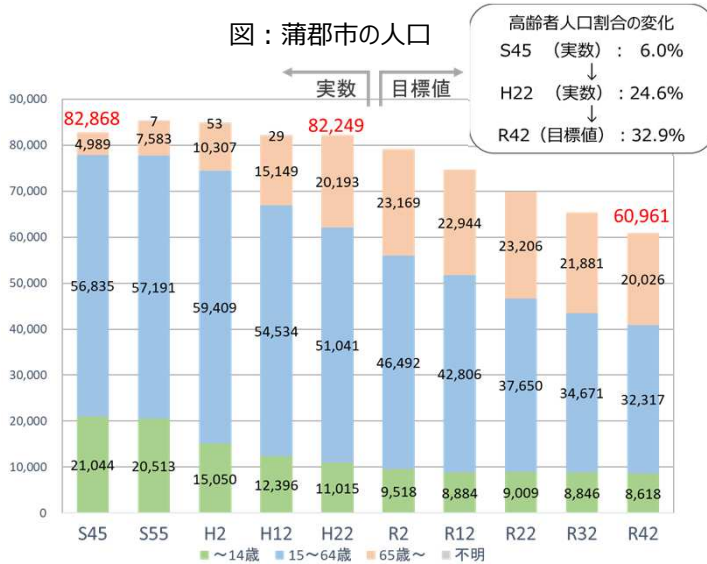
### ワークショップでお伝えしたこと

ワークショップ開催にあたって、まず最初に事務局から参加者の皆さまに、蒲郡市が置かれている現状や課題、これまで行ってきた取り組みや今後の検討の進め方等について説明を行いました。

#### (1) 蒲郡市の現状と課題

##### ① 人口減少と少子高齢化が進んでいます

蒲郡市の人口は、約40年後の令和42年には、現在から約2万人減少し、60,961人（市目標値）になると推計されています。市全体の人口のうち年少人口・生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢者人口が占める割合が増えていきます。今後、高齢者人口割合の増加により扶助費など“ヒト”にかかる費用が増え、公共施設などの“モノ”にかかることのできる費用が減っていくことが想定されます。

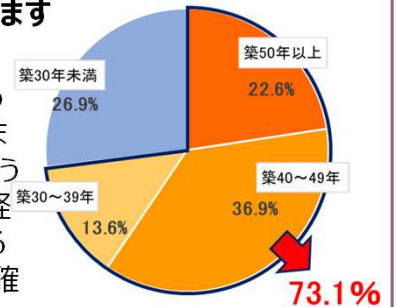


##### ② 時代とともにニーズが変化しています

社会構造の変化により、共働き世帯や高齢者世帯などが増えてきました。それに伴い、子育てしやすい環境づくりや高齢者支援の充実など、市民の皆さまのニーズも変化しています。ソフト（提供サービス）だけではなく、ハード（公共施設）の面からも、このようなニーズの変化に対応していく必要があります。

##### ③ 施設の老朽化が進んでいます

蒲郡市の公共施設の多くは、人口・経済ともに右肩上がりだった昭和50年代までに建設されました。市が保有する公共施設のうち約7割が建設後30年以上経過しており、老朽化が進んでいることから、今後施設の安全性を確保するため、大規模な改修・建替えが必要となってきます。



図：市の保有する公共施設の築年数別床面積割合

##### ④ 施設の維持・更新に多額の費用が必要です

近い将来、多くの公共施設の改修・建替えが必要になると想定されています。全ての施設を同じ規模で維持し続けるには多額の費用が掛かることが見込まれており、現在の蒲郡市の財政状況では、その費用をまかなうことは難しい状況です。

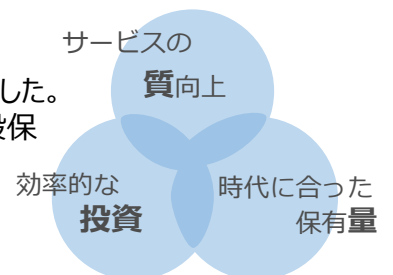
#### (2) 公共施設マネジメントとは

公共施設マネジメントとは、「質・量・投資」の3つの視点から公共施設を総合的に管理する取り組みです。先に述べたような課題を解決するため、蒲郡市だけではなく全国の自治体でこの取り組みが進められています。

「質」：時代とともに変化するニーズに対応可能な施設か、使い勝手のよい施設かなど、多くの皆さまに便利に利用していただける施設づくりが必要です。

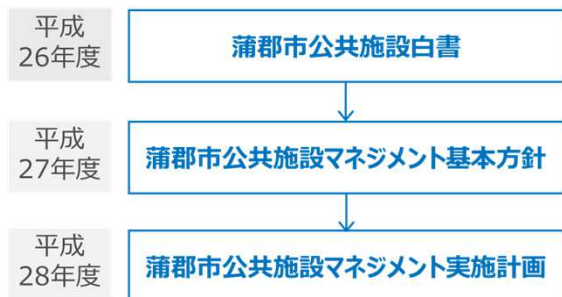
「量」：今までの公共施設は人口が増える時代に当時の需要に合わせて建設されてきました。蒲郡市の人口規模や財政状況を踏まえ、将来世代の負担とならないような施設保有量を考える必要があります。

「投資」：どの建物を優先的に改修・建替えをおこなっていくのか、施設の安全面や今後の需要等を踏まえ、効率的に考える必要があります。



### (3) 蒲郡市におけるこれまでの取り組み

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を整理しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆さまのご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の再整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。



#### ■ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

適正化 効率化 魅力 安全性 実行力

この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

#### ■ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については以下のとおりです。

◆計画期間：30年間(平成29年度から令和28年度まで)

◆マネジメント目標：

- ① 建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。

※現在、計画の改訂作業を実施しています。

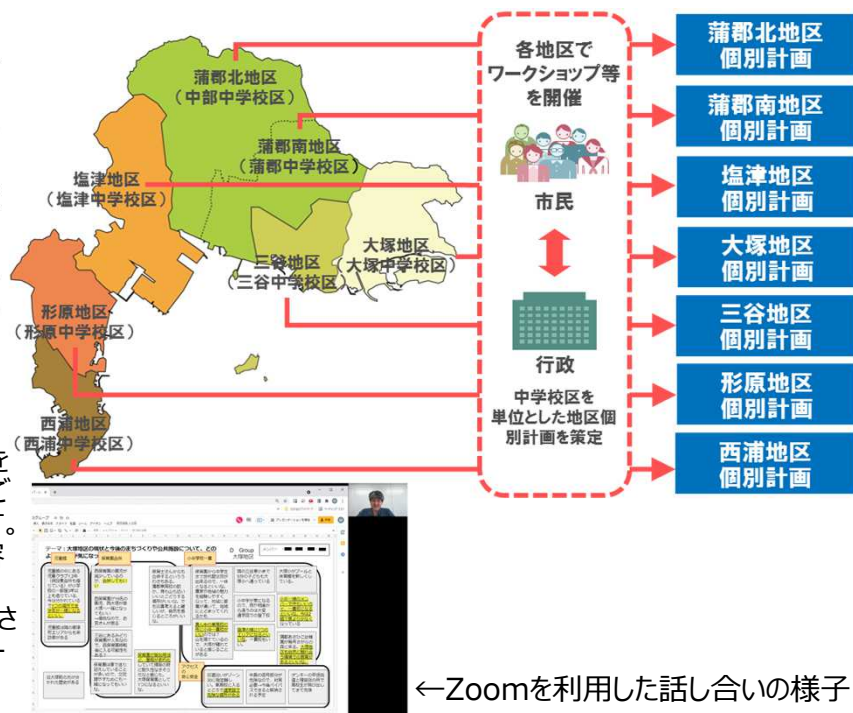
### (4) 地区個別計画の策定

地区の皆さまが主な利用者となる小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定します。

計画の策定にあたっては、地区ごとの特性・特徴を施設の配置に反映し、施設の再編がより良いまちづくりにつながるようワークショップやかわら版、パネル展示型説明会等で地区の皆さまのご意見を伺いながら検討を進めます。

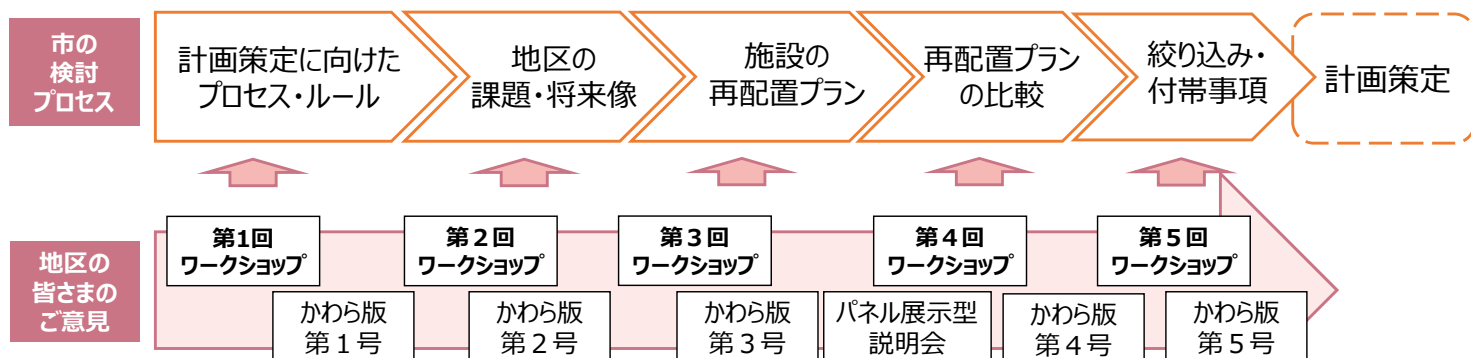
#### 【用語解説】

**ワークショップ**：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。公募でご応募いただいた方々に継続的に話し合ってもらいます。  
**かわら版**：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせし、地区の皆さまからご意見を募集します。  
**パネル展示型説明会（オープンハウス）**：住民の皆さまが集まる施設でパネルを用いた説明や簡単なアンケートを実施します。



### (5) 検討の進め方

市は地区個別計画の策定に向け、5つのステップに分けて段階的に検討を行います。検討の各ステップでは、ワークショップ等でいただく地区の皆さまのご意見を参考にします。



皆さまのご意見を参考に大塚地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”、“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

# 第1回ワークショップでいただいたご意見

今後の検討の進め方や、地域のまちづくり・公共施設についてご意見をいただきました。

## 計画策定に向けた検討やワークショップの進め方

### ■ 公共施設マネジメントの考え方について

- 公共施設の再編の方針のように、施設の複合化によって効率化したほうがよい。
- 小学校に多様な機能を持たせるといふ話は、コストを考えるとよいのかもしれないが、複合化することにより各施設の良さがなくなるのは寂しい。元の施設の利点が失われないように配慮してほしい。
- 大塚金野線の整備や一般廃棄物最終処分場の跡地活用など、今後大塚地区に影響のあることがいくつかある。公共施設マネジメントと合わせて考えてもよいのではないかと。

### ■ ワークショップの進め方について

- 今後整備する施設を主に使うこととなる若い世代の意見を尊重したい。
- 色々な分野の方が参加しており様々な意見が聞けることが楽しみだ。今回のグループにはいない他地区の方の意見も聞いて検討を行いたい。
- かわら版は、ひめはる会館など誰もが目に留まる場所に掲示してあるとよい。

## 地区のまちづくりについて

- 地区に若い人が少なく、人口も減っているため不安だ。若い世代が移り住んでくれるような地域を作りたい。
- 若い世代が大人になると他の地区へ出ていってしまう。働く場所がないことや買い物・交通等の不便さが原因ではないか。
- みかん農家の後継者がおらず、農家が減っている。蒲郡の重要な産業として残していきたい。
- 相楽町はみかん農家が多く元気な高齢者が多かったが、農業や生活スタイルも変わってきているため、昔と事情は変わってきていると思う。
- 海と山が近く自然が多いのが魅力だ。公共施設も自然の良さを活かせば魅力につながるのではないだろうか。
- 地域振興が遅れているという不満はない。人がよく良い地域だと思う。
- 若い世代には不便があるかもしれないが、高齢者には住みやすい地区だと思う。
- 高齢者のことを考えるとくりんバスの本数や路線を増やすのはどうか。みんなが使いやすいバスになると車がなくとも便利に暮らせるようになる。
- 市内でも外国人が多い地区ではないだろうか。外国人との共生も考える必要があるだろう。
- 施設の統合により避難所が減ってしまうと災害時に機能するのか疑問だ。避難所は複数あったほうが、多くの方が避難しやすいだろう。避難所の数と避難所までの距離は公共施設の配置を考える視点として必要だ。
- 大塚地区は狭隘道路が多く防災の観点からも不安がある。旧道は道が狭く歩道も整備されていない部分があるが、交通量が多く危険だ。新しい公共施設には安全に通える道路を整備してほしい。

## 公共施設の現状や今後について気になること

### ■ 公共施設全般

- 公共施設が複合化することで、多世代が交流できるとよい。高齢者と孫が遊んだり、若者が発表をしたり、日々の生活の中で交流が生まれる施設となるとよいが、その場合、遠方の方への配慮が必要だろう。
- 1つの場所で保育園から中学生まで世代間交流ができる施設となるとよい。施設を利用する子ども達が農家や地域の魅力を経験することで、地元への愛着が湧き、将来的に地域にとどまってくれるかもしれない。
- 保育園から小学校、中学校へと環境が変わる良さもある。子どもにとってはお兄ちゃんお姉ちゃんになるという気持ち芽生える。
- 保育園と小学校が一体化するとお迎えも安心で楽だ。先生と話をすることもでき、メリットが多そう。
- 地理的に他の地区と離れているので、地区内で公共施設を複合化する方向になると思う。
- 豊橋や新城では学校と公民館が併設されており、夜は体育館を地域の人が使うなど上手に使っていると思うので、大塚でも見習うとよい。
- 子どもが遊ぶ場所がないため、日陰の空間や室内の遊び場など子ども達の居場所があるとよい。また、今後部活動がなくなるのであれば、外部のサークルや指導員、公民館、児童館などを活用し、自宅以外に過ごすことのできる場所が欲しい。
- 施設の再編を考えるうえで、駐車場は重要だ。

### ■ 小中学校

- 子どもの数が減っており、1学年1クラスという状況なので小中学校は一緒にするとよい。小学校から中学校へと同じメンバーで進学するので一貫校にしてもよいだろう。
- 地区の真ん中にある蒲郡東高校付近の基盤整備された場所に小中一貫校を整備してはどうか。
- 大塚は分村合併をしたため小中学校が地区の東端に立地しており、配置のバランスが悪い。西大塚や相楽の子どもは通うのが大変だろう。体力が付きよい面もあるが、冬場や雨の日は家族が送迎することもあるようだ。
- 小学校は通学路の安全性が心配だ。道が狭かったり、危険な場所もある。交通安全だけでなく、冬は道が暗くなるので防犯の面でも心配だ。
- 年上の子が下の子の面倒を見ながら通学しているのを見るとかっこいいと思う。異年齢の子ども達の交流は新しい刺激があり、良い効果があるのではないかと。
- 入学する児童の数が減っている。かつては各学年2クラスあったが、今年の1年生は1クラスだ。既存の規模や教室数が必要なのだろうか。教室を大きく取ることも考えられるだろう。
- 部活動が少なく、小学校の文化部は吹奏楽しかない等入りたいと思う部活がなさそう。多様な楽しみが地域にあると放課後の過ごし方が充実するのではないかと。
- 今は同級生同士や先輩後輩のつながりが希薄化しているように感じるので、地域の様々な人材が地区の子どもの繋がりや機会に力を添えられるとよい。
- 校庭の遊具が減っている。ゲームなどで外で遊ぶ機会が減っており、ますます日にあたる機会が減るのではないかと。

## 公共施設の現状や今後について（続き）

### ■ 保育園

- 0～1歳の低年齢児保育がないことは、子育て世代が移り住まない決定的な要因となるだろう。今後も共働き世帯は増えるので低年齢児保育もできる保育園にしてほしい。
- 低年齢児や延長保育、病児保育など保育サービスが充実していない。サービスが充実したら、思うように働けるのと思う親は多いのではないか。
- 大塚西保育園の園児数が減少しているの、大塚保育園と合併してもいいのではないか。2園を集合することで、低年齢児や保育時間などのサービスが向上するとよい。
- 保育園は、子ども達や親の交流を増やすために合併してもよい。
- 保育園が老朽化しており、地震などを考えると不安だ。塩津地区のように施設の集合をすることで大塚も1つにして新しくなるとよい。
- 施設を一体化することで、渋滞や駐車場不足、マナー違反による周囲への迷惑などお迎えの車が心配である。
- 西大塚からみると東に施設が集中しており、子どもの送り迎えが基本的に車となる。
- あさひこ幼稚園が毎月さからの森に来る。大塚でも自然に触れ合う環境での教育があるとよい。新しく保育園を整備するならば、蒲郡東高校の前など海や山の自然を感じる場所が良いが、災害を考えると適地は難しい。

### ■ 公民館

- 公民館の子ども向け教室が1つの居場所となっている。高齢者向けの教室もあり、ぜひ活用してほしい。
- 公民館は料理教室などが開かれており、情報発信や様々な行事の会場として利用されている。高齢者にとつては地域の繋がりを生む拠点として機能している。

- 中学生までは本を借りるために館内の図書館分室を利用していたが、若者が公民館を利用する機会はない。
- 東大塚いこい会館では日本語教室や多文化交流が行われているが、公民館も地域の外国人が利用し交流が増えると思う。
- 昔は小中学校と同じように地区の東寄りに立地していたが、現在は地区の中央にあるので場所的には良いと思う。
- 公民館の建物の耐久性や設備の老朽化が気になるが、普段利用している人はどう思っているのだろうか。

### ■ 児童館

- 既に児童館は東大塚いこい会館と複合施設になっている。高齢者のいきいきサロンを集会所で行っており、児童館の親子と一緒に体操したり、複合施設を上手に使っている。
- 児童館は町民以外にも御津町からの利用者がいる。施設内から電車が見えることが人気の理由のようだ。
- 共働き・シングル家庭の増加に伴い児童館の利用者が多くなっている。長期休暇中は特に多いが、地区内に1つしかなく、規模や運営が心配だ。混雑しているために家で遊ぶしかないという状況もある。

### ■ 児童クラブ

- 働く母親が多いので、児童クラブの利用者も増えている。おおつか児童館内の児童クラブは部屋が狭く、全員が入れないため、併設する集会所のスペースを借りている状況である。
- 児童クラブは高学年が小学校、低学年が児童館で実施されているが、兄弟で利用している家庭は大変ではないだろうか。1か所にまとまると便利になる。
- 児童館と小学校の児童クラブをなるべく同じ状況にしてほしい。児童館の方がおもちゃが充実しているなどの違いがある。

## ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を参考にして「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 大塚地区のまちづくりや公共施設について

日々の生活で感じている地域や地区内の公共施設に関する些細なことでも構いません。

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、連絡先の記載をお願いします。

ご意見を  
お待ちしております!!



## 次回ワークショップのお知らせ

日時：9月26日（日）  
午後1時30分～午後4時30分  
内容：地区の課題について  
課題解決のためのアイデアについて

新型コロナウイルス感染症対策のため、  
全面オンラインで実施します。  
終了後はHPにて結果概要を掲載しますので  
ぜひご確認ください！

## お問い合わせ先

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号

E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp

TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて  
詳しくはHPをご覧ください。

（右のQRコードまたは  
市HP 記事ID「0205697」で検索）

